

学校評価（後期）教職員アンケート結果

令和4年3月

(1) 組織運営等

学校評価【後期】		自己評価書【中間評価】					
評価項目	No.	質問項目	前期(4月～9月)		後期(9月～12月)		肯定率
			評価ポイント(1～4点)	評価	評価ポイント(1～4点)	評価	
組織運営	1	学校は、学校教育目標・短期目標達成に向けて、組織的に運営し、「笑顔 感動 いっぱい 虹色に輝く みんなの学校づくり」に取り組んでいる。	3.21	B	3.04	B	85.71
	2	学校は、学校教育目標・短期目標に基づき、学年・学級経営、教科経営及び校務分掌を機能させている。	3.09	B	3.07	B	89.29
	3	学校は、事故やトラブル等に対して未然に防ぐ備えをするとともに、迅速に対応している。	3.26	B	3.21	B	92.86
	4	学校は、環境美化に努めたり、整えたりしている。	3.21	B	3.11	B	92.86
基礎学力の徹底	5	学校は、児童が主体的、対話的で深い学びにより資質能力を高められるよう授業を展開している。	3.27	B	3.25	B	100.00
	6	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童の言語能力を高めている。	3.18	B	3.29	B	100.00
	7	学校は個に応じた指導の工夫などにより授業改善に努め、基礎的な学力を向上させている。	3.14	B	3.07	B	89.29
	8	学校は、問題解決的な学習や体験的な学習などにより、児童の学習への意欲を高めている。	3.23	B	3.22	B	96.30
	9	学校は、ICTを活用した授業実践を行い、特に学習用タブレット端末(iPad)を活用した授業の充実に努め、児童の学習への意欲を高めている。	3.09	B	3.30	B	88.89
規律ある態度の育成	10	学校は、児童が友達や教職員・来校者に進んであいさつができるよう礼儀等を指導し、成果をあげている。	2.83	B	2.89	B	77.78
	11	学校は、児童の実態に基づき、指導を工夫・改善し規律ある生活習慣等を身に付けさせるよう指導し、成果をあげている。	3.13	B	3.11	B	100.00
	12	学校は、児童がいじめや意地悪な行為等をする事なく、お互いの良さを認め合って学校生活を送れるように取り組んでいる。	3.25	B	3.36	B	96.43
	13	学校は、児童が清掃等の仕事の仕方を理解し、黙々と最後まで取り組むよう指導し、成果をあげている。	2.87	B	3.04	B	78.57
の健康上・体力	14	学校は、児童が体力向上に向け、体育授業や休み時間等において意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	2.95	B	2.96	B	82.14
	15	学校は、計画的に健康教育(安全教育・食育を含む)を推進している。	3.00	B	3.04	B	89.29
と保護者・連携・協力	16	学校は、PTA活動や地域活動に関心をもち、保護者・地域と連携協力している。	3.17	B	3.15	B	92.59
	17	学校は、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	3.30	B	3.36	B	96.43
	18	学校は、学校応援団組織を充実させるとともに、保護者や地域と連携した教育活動を展開している。	3.13	B	3.21	B	96.43
☆ A・・・3.4以上 B・・・2.6以上3.4未満 C・・・2以上2.6未満							

調査結果概要

<数値の高い項目から>

【良い点】

質問⑤「学校は、児童が主体的、対話的で深い学びにより資質能力を高められるよう授業を展開している。」
⇒数値はやや下がったが前期同様3.2ポイント以上である。教員は、新学習指導要領に合わせて、児童の資質・能力を高めることを意識した授業改善を進めてきたと評価できる。

質問⑥「学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童の言語能力を高めている。」
⇒前期と比べて数値は上昇した。教員は、国語科を中心とした各教科等の授業で言語活動を重視してきたと評価できる。

質問⑧「学校は、問題解決的な学習や体験的な学習などにより、児童の学習への意欲を高めている。」
⇒数値はやや下がったが、前期同様3.2ポイント以上である。フィールドワークや校外学習、ゲストティーチャーの活用などを教員は積極的に取り入れ、児童の学習意欲を高めてきたと評価できる。

質問⑨「学校は、ICTを活用した授業実践を行い、特に学習用タブレット端末（iPad）を活用した授業の充実に努め、児童の学習への意欲を高めている。」
⇒前期と比べて数値は上昇した。教員間に、学習用タブレット端末の積極的活用が浸透していると評価できる。今後はタブレット端末のさらなる活用を図るため、学習活動に応じたより効果的な活用方法、授業以外での活用方法など、家庭・地域と連携を図りながら学校全体で検討していく。

質問⑫「学校は、児童がいじめや意地悪な行為等をする事なく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるように取り組んでいる。」
⇒前期と比較して数値は上昇した。教員は、児童がお互いのよさや努力を認め合い、学校生活をおくれるように取り組んできたと評価できる。

※評価できる点については、令和4年度も同様な取組を継続しつつ、さらなる工夫・改善を行っていく。

<数値の低い項目から>

【課題点】

質問⑦「学校は個に応じた指導の工夫などにより授業改善に努め、基礎的な学力を向上させている。」
⇒前期と比べて数値がやや下がっている。多様な児童に合わせた指導の工夫、スマート教員による複数指導体制の在り方などを工夫・改善していくことが必要である。今年度の体制を振り返り、令和4年度の体制づくりに生かしていく。

質問⑩「学校は、児童が友達や教職員・来校者に進んであいさつができるよう礼儀等を指導し、成果をあげている。」
⇒児童アンケートでは3.52と高いが、教職員アンケートでは2.89と低い評価であった。児童と教職員との間に認識の違いが生じていることが考えられる。引き続き、「気持ちの良いあいさつ」「進んであいさつをする」などについて、全校朝会や学級指導を通して、児童の分かる言葉で共有化を図っていく。また、その他工夫した取組を行っていく。

質問⑭「学校は、児童が体力向上に向け、体育授業や休み時間等において意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。」

⇒2.96ポイントと前期に続いて2ポイント台とやや低い。授業を中心に、体力向上を図る様々な取組や、児童の運動への意欲を高める取組などをより一層充実させていく。

(2) 学校教育目標・短期目標と3つの資質・能力に関わる項目

学校評価(後期)		自己評価書【前期・後期】	前期(4月～8月)		後期(9月～12月)		肯定率
評価項目	No.	質問項目	評価ポイント(1～4点)	評価	評価ポイント(1～4点)	評価	
考える子ども	1	高)学習や生活の場で活用できる基礎的・基本的な知識・技能を進んで学ぶことができる子 中)学習や生活の場で使える基礎的・基本的な知識・技能を進んで学ぶことができる子 低)学習や生活の場で使える知識やわざなどを進んで学ぶことができる子	3.14	B	3.17	B	100.00
	2	高)自分の考えを豊かに表現したり、学んだことを応用し、よりよく課題を解決することや、新しい課題に取り組んだりすることができる子 中)自分の考えを豊かに表現したり、学んだことを使ったりして、よりよく課題を解決することや、新しい課題に取り組んだりすることができる子 低)自分の考えを豊かに表したり、学んだことを使ったりしながら、よりよく問題をとくことができる子	2.82	B	3.04	B	100.00
	3	高)疑問を感じて自ら意欲的に学んだり、他者の助けを得ることや、協働したりしながら粘り強く学ぼうとする子 中)疑問を感じて自ら意欲的に学んだり、友達の助けをかりることや、協働したりしながら粘り強く学ぼうとする子 低)疑問に思ったことを自分から進んで調べようとして、友達の助けをかりたりしながら一緒に学ぼうとする子	2.95	B	3.05	B	90.91
思いやりのある子ども	4	低・中・高)礼儀正しく気持ちのよいあいさつや温かい言葉がけなどができる子	2.91	B	3.22	B	100.00
	5	高)多様な考えを認め合ったり、他者と協力し合ったりしながらよりよい言葉がけや行動することができる子 中)多様な考えを認め合ったり、友達と協力し合ったりしながらよりよい言葉がけや行動することができる子	3.00	B	3.26	B	95.65
	6	高)自分も他者も大切にしながら互いに関わり合い自尊感情を高め合おうとする子 中)自分も友達も大切にしながら互いに関わり合い自尊感情を高め合おうとする子 低)自分も友達も大切にしながら関わり合い、お互いを高め合おうとする子	2.91	B	3.22	B	95.65
はたらく子ども	7	高)めあてを決め精一杯自分の役割を果たすことができる子 中)めあてを決め自分の役割を果たすことができる子 低)めあてを決め自分の仕事をしっかりとできる子	3.04	B	3.14	B	95.45
	8	高)自ら何をなすべきか進んで考え行動したり、他者と互いに協力し合ったりしながらよりよくはたらくことができる子 中)自分がするべきことは何かを考え行動したり、友達と互いに協力し合ったりしながらよりよくはたらくことができる子 低)自分がするべきことは何かを考え行動したり、友達と協力し合ったりしながらよりよくはたらくことができる子	3.18	B	3.09	B	95.65
	9	高)自分のやるべきことに粘り強く取り組んだり、他者のために役立つようしたりする子 中)自分のやるべきことに粘り強く取り組んだり、周りの人のためになることをしたりする子 低)自分のやるべきことにがんばって取り組んだり、周りの人のためになることをしたりする子	2.95	B	3.13	B	100.00
じょうぶな子ども	10	高)規則正しい生活ができたり、基礎体力を身につけたりすることができる子 中)規則正しい生活ができたり、体をたくさん動かしたりすることができる子 低)規則正しい生活ができたり、体をたくさん動かしたりすることができる子	3.05	B	3.09	B	95.45
	11	高)健康や安全についてよりよく考え適切に判断して行動することができる子 中)健康や安全についてよりよく考え行動することができる子 低)健康や安全についてよく考えることができる子	2.91	B	3.04	B	100.00
	12	高)たくましくなやかな心と体をつくらうと、自らを鍛えたり、他者と協働しながら鍛えたりしようとする子 中)たくましくなやかな心と体をつくらうと、自分を鍛えようとして、友達と一緒に鍛えようとしていたりする子 低)たくましくなやかな心と体をつくらうと、自分を鍛えようとして、友達と一緒に鍛えようとしていたりする子	2.96	B	2.96	B	86.96

調査結果概要

<数値の高い項目から>

【良い点】

質問⑥「自分も他者も大切にしながら互いに関わり合い自尊感情を高め合おうとする子」(高学年)

⇒3.22に上昇し、肯定率も95ポイントを超えている。教員は児童の自尊感情が高まっていると感じている。また、児童同士の関わり合いによって高め合おうとしていると感じている。後期に重点として取り組んだ様々な活動が、児童のよりよい育成につながったと評価できる。

質問④⑤⑥「思いやりのある子ども」に関する項目

⇒前期と比較し、3項目ともに数値が上昇している。教職員から見て、日頃のあいさつや温かい言葉がけをしていたり、友達や他者と協力していたりする児童が増えたと考えている。特に、後期に重点項目として設定し、学校全体で取り組んだことの成果が出ていると評価できる。

質問③⑥⑨「学びに向かう力、人間性等」に係る項目

⇒学びに向かう力に係る項目の数値が2ポイント台から3ポイント台に上昇した。学習の振り返りを行う場面や児童にめあてをもたせる場面を充実させるなど、学習への意欲を高める取組や各学級での授業改善により、前期に比べて自ら進んで学習や生活を行おうとする児童が増えたと評価できる。

質問①④⑦⑩「知識及び技能」に係る項目

⇒知識及び技能に関わる4項目が全て上昇し、3ポイント台に上がっている。日々の教育活動を通して、学習面に限らず児童は様々な知識や技能を身に付けてきたと評価できる。

質問②⑤⑪「思考力・判断力・表現力等」に係る項目

⇒思考力・判断力・表現力等に関わる3項目が、2ポイント台から3ポイント台に上昇している。学習面に限らず、児童の思考力等は伸びていると教員が感じている。後期に取り組んだ実践や授業改善等により、児童の思考力等が伸びてきたと評価できる。

※評価できる点については、令和4年度も同様な取組を継続しつつ、さらなる工夫・改善を行っていく。

<数値の低い項目から>

【課題点】

質問⑧「自ら何をなすべきか進んで考え行動したり、他者と互いに協力し合ったりしながらよりよくはたらくことができる子」(高学年)

⇒後期になって数値はやや下がった。児童が周囲からの指示を受けず、自分で状況を把握したり自らのすべき行動を判断したりする力がやや不十分である。指示通りに行動するのではなく、適切な行動について自分で考えたり選択したりする場を児童に設けることや、友達や他の人と協力して活動する機会を設けることなどをより充実させていく。

学校評価（後期）児童アンケート結果

令和4年3月

児童アンケート結果 2 学期（全校）

質 問	平均値			肯定率		
	1 学期	2 学期		1 学期	2 学期	
1：学校は楽しい。	3.56	3.54	↓	92	92.4	↑
2：授業はわかりやすい	3.61	3.57	↓	93.3	95.1	↑
3：自分は進んで学習に取り組んでいる	3.38	3.33	↓	86.7	86.9	↑
4：学習用タブレットを使って学習している	3.36	3.49	↑↑	85.9	91.8	↑↑
5：自分の考えや思いを言葉や文字にして表すことができる	3.3	3.25	↓	81.5	82.2	↑
6：これまで学んだことを次の学習に生かしている。	3.35	3.25	↓↓	86.4	85.8	↓
7：まわりの人と相談や話し合いなどしながら自分から学ぼうとしている。	3.34	3.33	↓	86	88.4	↑
8：まわりの人に自分からあいさつができています。	3.51	3.52	↑	91.6	92.1	↑
9：まわりの人の話をよく聞くことができる	3.48	3.5	↑	90.7	92	↑
10：まわりの人を大切にされた言葉がけや行いができる	3.47	3.42	↓	88.3	86.6	↓
11：自分のことが好きで大切に思っている	3.2	3.24	↑	76.6	79.3	↑
12：まわりの人のことを考えている	3.5	3.58	↑↑	93.7	94	↑
13：先生に話を聞いてもらっている	3.63	3.64	↑	94.1	94.5	↑
14：先生はいけないことはいけないと言ってくれる	3.81	3.81	—	97.2	96.5	↓
15：目標やめあてをもって学校生活を送っている	3.45	3.41	↓	90	88.7	↓
16：まわりの人と協力しながら生活や学習をすることができる	3.55	3.54	↓	92.8	93.5	↑
17：まわりの人のためになるような仕事をしている	3.37	3.36	↓	89.2	87.2	↓
18：給食をしっかり食べ元気に生活している	3.67	3.67	—	94.7	93.3	↓
19：ルールやマナーを守って登下校するなど安全に気を付けている	3.65	3.63	↓	95	93.2	↓
20：まわりの人と楽しく遊んだり進んで運動したりしている	3.64	3.64	—	93.2	93	↓

平均値…最高値は「4」最低値は「1」

肯定値…全体に対し、「4 そう思う」か「3 少し思う」と回答した割合。

調査結果概要

<数値の高い項目から>

【良い点】

質問⑪「自分のことが好きで大切に思っている」

⇒肯定率は前期に比べて3.3ポイント上昇し、80%近い数値になっている。学校全体で実施した自己肯定感等を高める取組により、児童が自己肯定感を感じたり自尊感情をもったりできるようになってきたと評価できる。また、教職員や保護者による前向きで肯定的な声掛けや支援により、自己を認められたら励まされたりする機会が増え、自分のことを大切に思う心情をもつことにつながっていると評価できる。

質問④「学習用タブレットを使って学習している」

⇒肯定率は前期と比較し、5ポイント近く上昇している。学校全体として学習用タブレットを積極的に活用して指導や学習活動を行っていることと評価できる。教員間でもICT機器の活用方法についての情報交換が進み、効果的な活用方法について様々なアイデアを共有していることが、学習用タブレットの積極的活用につながっていると評価できる。

※評価できる点については、令和4年度も同様な取組を継続しつつ、さらなる工夫・改善を行っていく。

【課題点】

質問⑥「これまで学んだことを次の学習に生かしている」

⇒前期と比較すると肯定率は下がっている。児童の主体的に学習に取り組む態度をどのように養っていくとよいかをさらに検討していく必要がある。また、志木市学力・学習状況調査の結果からも、学習内容や資質能力の活用に関わる力が本校児童の課題として挙げられている。児童が学習を通して身に付けてきたことを振り返り、「どのような知識・技能が、どのような場面で生かせるのか」「どのような思考力・判断力・表現力等が、どのような場面で生かせるのか」などを考える場を充実させることが必要である。

質問⑮「目標やめあてをもって学校生活を送っている」

⇒肯定率は前期と比較し、やや下がっている。学習面・生活面において、目標やめあてをもてなくなっていると感じている児童がいると考える。学校教育目標を意識して学校生活を送ったり、学ぶ目的や学習活動を行う理由などを意識しながら過ごしたりなど、目的意識をもって学習や生活に臨むことに対する手立てが求められる。学校教育目標を普段の学級での生活や学習の中で児童が意識できるように、学級や学年での目標との関連を図るなど、目標やめあての示し方やもち方を工夫・改善することが効果的であると考える。また、教職員アンケート結果からも、児童が細かな指示や説明を受けながら学習や生活をしている状況が見られるなど、見通しをもって自分で考えたり選択したりする場を設けることが必要である。